

山形県母性衛生学会ニュースレター



会長挨拶

山形県母性衛生学会会長 遠藤恵子

我が家で7年半暮らしたペットのメスのヤギが、先日虹の橋を渡ってしまいました。

子どもがヤギを飼うと決めたときは、ヤギ？ なんでヤギ？ ヤギって何？ 家族全員「？」と不安でいっぱいでした。

トイレのしつけはできない。芸はしない。

言葉は通じない。

貪欲な食欲。食べてはいけないものも何でも口の中に入れてしまう。

子ヤギ時代は身軽でとにかく跳ねる。想定外のジャンプ力で、小屋から何回か脱走。

子ヤギ時代を過ぎてからは跳ね(られ)なくなった代わりに、60キロの巨体で愛情表現の頭突き。私の肋骨にはひびが数回。

気に入らないことがあってキレれば、寝転がって死んだふり。

思わず添い寝したくなるような、警戒心が微塵もない寝姿。

餌の確保、小屋の掃除、散歩、爪切り、小屋の雪囲いや小屋の雪下ろし、ハエやアブなどの虫よけ対策、暑さ対策・・・。

毎日の世話や病気などたいへんなこともありましたが、楽しい貴重な経験でした。

近所の農家からの規格外の野菜や、除草した草や剪定した木は本当に助かりました。

食べさせていけない餌、病気の予防方法、爪切り方法、寒さ対策、暑さ対策、虫よけ方法など日常生活に必要な情報は、インターネットでたくさん得ることができました。

ヤギを飼っている人のブログを見て、「うちと同じだ」「うちは違う」と一喜一憂。会ったこともないヤギ飼いブロガーさんは、心強い仲間でした。

ヤギを見に来る近所の親子には、ヤギのかわいさをたくさん自慢しました。

「？」と不安がいっぱいで始まったヤギとの生活は、周りの人とのさまざまなかかわりで、楽しい毎日となりました。

山形県母性衛生学会は、職種や就業場所といった枠を超えた事業が強みです。育児期世代やこれから育児の可能性のある世代の「？」と不安に対して、さまざまなかかわりで支援していきたいと思えます。

第46回学術集会開催のご報告

令和6年11月16日（土）に第46回山形県母性衛生学会学術集会を開催しました。オンラインでの開催とし、山形県内はじめ山形県外からの助産師、看護師、保健師などおよそ30名にご参加いただきました。

一般演題報告では、「直接授乳が困難な褥婦への支援」について1題と、委託研究報告では、「健康教育実施前後の子宮頸がん予防意識の変化について」の発表がありました。

特別講演では、「出生前検査をめぐる意思決定支援」というテーマで、信州大学医学部保健学科教授中込さと子先生をシンポジストにお迎えし、ご講演をいただきました。多くの質問や意見があり、活発なディスカッションが展開しました。



信州大学医学部保健学科 中込さと子 教授

母子保健支援者交流会のご報告

令和6年9月28日(土)、令和7年3月11日(火)に母子保健支援者交流会を開催しました。山形県の母子とその家族の健康を守るため、支援者同士が情報交換し支援体制を検討すること、社会へ情報を発信することを目的に交流会を運営いたしました。

第一回は山形県立保健医療大学にて現地開催し、山形県内の助産師、保健師、保育園看護師、子育て支援施設の支援員など14名にご参加いただきました。施設の取り組みや連携について情報共有を行い、これからの必要な支援についてディスカッションを行いました。

第二回は村山地区以外の方も気軽に参加していただけるように、オンラインでの開催といたしました。第一回と同じように様々な職種の支援者14名にご参加いただき、日頃の取り組みや困りごとなどをそれぞれの立場から意見交換することができました。

参加した方々より、「幅広い職種の方の話が聞けてとても有意義だった」、「顔の見える関係ができると、仕事で悩んだ時に気軽に相談できたり、お互い高めあうきっかけになった」、「子育て支援として地域にいる助産師に求められることは何なのかと考えさせられた」、「このような交流会が回数を重ねたり、より多くの方が参加することで子育てサポートの輪が広がってほしい」という嬉しい感想をいただき、施設を超え、助産師だけでなく職種の垣根を越えての交流することができました。

交流会の終了後はSNSでつながり、支援者のプラットフォームとして交流や情報共有をしています。支援者自身が笑顔で活躍できるよう、これからも山形県母性衛生学会は活動して参ります。

ぜひお越しください！

つながろう！子育てサポーター

まわりの施設はどんな取り組みをしているのかな？
もっといい支援するにはどうしたらいいのかな？
私達の支援のその先にどんな支援があるのか知りたい！



山形県母性衛生学会では、施設の垣根を超えたネットワークづくりを目指し、母子保健の支援者交流会を開催します。
明日から取り組める支援について、みんなで語り合えよう！

内容 グループワーク それぞれの施設の取り組みや課題 他施設との連携	2024年9月28日(土) 10:00~12:00 山形県立保健医療大学
交流会	申し込みフォーム 当日までお申し込みください https://forms.office.com/r/AWAL2JNbrf
参加者 母子保健に関わる人ならだれでも！ 看護職・行政職・保育関係 子育て支援団体の方	お問い合わせ 山形県母性衛生学会事務局 rhiguchi@yachts.ac.jp 023-686-6616 担当 渡邊
参加費：無料 飲み物は各自お持ちください	



山形県母性衛生学会

第2弾

ぜひご参加ください！

つながろう！子育てサポーター

まわりの施設はどんな取り組みをしているのかな？
もっといい支援するにはどうしたらいいのかな？
私達の支援のその先にどんな支援があるのか知りたい！

山形県母性衛生学会では、施設の垣根を超えたネットワークづくりを目指しています。
明日から取り組める支援について、みんなで語り合えよう！

前回の参加者の声

- 顔の見える関係ができると、仕事で悩んだ時に気軽に相談できたり、お互い高めあうきっかけになっていた！
- 生の声で連携できる場として、長いお付き合いをお願ひしたい！
- このような交流会が回数を重ねたり、より多くの方が参加することで、子育てサポートの輪が広がってほしい！

2025年3月11日(火) 19:00~21:00
オンライン開催 時間内は出入り自由です

参加費：無料

内容：情報交換・交流会

参加者：母子保健に関わる人ならだれでも！
看護職・行政職・保育関係子育て支援団体の方

申し込みフォーム
<https://forms.office.com/r/QM5xUfQ7y>
前日までお申し込みください
お申込みされた方に URL をお送りいたします

お問い合わせ
山形県母性衛生学会事務局 023-686-6616 rhiguchi@yachts.ac.jp 担当 渡邊



山形県母性衛生学会

令和6年度総会報告

オンライン会議

1. 報告事項

1) 令和5年度活動報告

- (1) 理事会開催 第1回理事会 令和5年5月16日 オンライン
令和5年度事業報告、会計報告、監査報告
令和6年度事業計画、予算 等
第2回理事会 令和5年9月 書面
委託研究 応募1件の審査
 - (2) 学術集会開催 第45回山形県母性衛生学会学術集会
令和5年11月18日(土) 山形県立保健医療大学
 - (3) 総会開催 令和5年11月18日(土) 山形県立保健医療大学
 - (4) 学会誌発行 ニュースレター 2回
 - (5) 委託研究
「健康教育実施前後の子宮頸がん予防意識の変化について」
村山市立楯岡中学校 土屋隆子 氏
 - (6) ウェブサイト運営
- ### 2) 令和5年度決算報告・監査報告

2. 協議事項

1) 令和6年度事業計画案

- (1) 理事会開催 第1回 令和6年5月22日
令和5年度事業報告、会計報告、監査報告、令和6年度事業計画、予算 等
第2回 令和6年8月
委託研究の審査
 - (2) 学術集会開催 第46回山形県母性衛生学会学術集会
令和6年11月16日 オンライン開催
 - (3) 総会開催 令和6年6月12日 オンライン開催
 - (4) 学会誌発行 令和6年8月 ニュースレターvol.17 発行
令和7年3月 ニュースレターvol.18 発行 2回
 - (5) 委託研究 山形県からの委託
 - (6) ウェブサイト運営
- ### 2) 令和6年度予算案
- ### 3) 役員案

令和6年度山形県母性衛生学会役員名簿

	氏名	所属
顧問	廣井 正彦	山形大学医学部名誉教授
顧問	永瀬 智	山形大学医学部産科婦人科教室教授
監事	手塚 尚広	前山形県産婦人科医会会長
監事	遠藤美穂子	仙台青葉学院短期大学講師
会長	遠藤 恵子	山形県立保健医療大学教授
副会長	堤 誠司	山形県立中央病院総合周産期母子医療センター長
理事	佐藤 征子	山形県しあわせ子育て応援部子ども成育支援課長
理事	荒木 京子	山形県村山総合支庁保健福祉環境部子ども家庭支援課 シニア専門員
理事	後藤 道子	公益社団法人 山形県看護協会常任理事
理事	西村恵美子	公益社団法人 山形県栄養士会顧問
理事	土屋 隆子	山形県小・中・高等学校教育研究会養護教諭連絡協議会会長
理事	山田富士子	一般社団法人 山形県助産師会会長
理事	藤田 愛	山形大学医学部看護学科教授
幹事 編集担当	手塚 美春	山形大学医学部看護学科助教
幹事 編集担当	鈴木 美春	山形大学医学部看護学科助教
幹事 広報担当	菊地 圭子	山形県立保健医療大学看護学科教授
幹事 庶務担当	渡邊 礼子	山形県立保健医療大学看護学科助教
幹事 会計担当	前田のぞみ	山形県立保健医療大学看護学科助教

令和5年度 一般会計収支決算書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

収入の部

(単位：円)

科目	令和5年度 予算額	令和5年度 決算額	差異	備考
1.年会費				
1)一般会員	80,000	44,000	△36,000	2,000×22名
2)学生会員	0	2,000	2,000	1,000×2名
3)賛助会員	40,000	60,000	20,000	
2.学会参加費				
1)一般	75,000	50,000	△25,000	会員500×16名 非会員3,000×14名
2)学生	5,000	4,000	△1,000	学生500×8名
3.研究委託金	70,000	70,000	0	山形県委託研究費
4.機関誌広告料	0	0	0	
5.雑収入	3	1	△2	利息
6.繰越金	554,462	554,462	0	令和4年度繰越金
合計	824,465	784,463 (a)	△40,002	

支出の部

(単位：円)

科目	令和5年度 予算額	令和5年度 決算額	差異	備考
1.事務費	20,000	38,211	△18,211	郵送料,事務用品等
2.会議費	0	0	0	
3.学術集会	120,000			講師謝金等
運営費		124,395	△4,395	会員参加費返金1名
4.ニュースレター 発行費	40,000	95,172	△55,172	ニュースレター2回 発行
5.ホームページ 管理費	20,000	10,230	9,770	ホームページ更新費
6.研究委託金	70,660	70,000	660	山形県委託研究費
7.人件費	40,000	0	40,000	
8.積立金	70,000	0	70,000	
9.予備費	443,802	0	443,805	
合計	824,462	338,008 (b)	486,454	

(a)-(b)446,455円は令和6年度への繰越金とする

令和6年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位：円)

科 目	令和5年度 決算額	令和6年度 予算額	備 考
1.年会費			
1) 一般会員	44,000	58,000	2,000×29名
2) 学生会員	2,000		
3) 賛助会員	60,000	40,000	1口×4団体(山形県産婦人科医会、山形県産科婦人科学会、山形県看護協会、山形県助産師会)
2.学会参加費			
1) 一般	8,000	14,500	会員500×29名
	42,000	60,000	非会員4,000×15名
2) 学生	4,000	5,000	学生500×10名
3. 研究委託金	70,000	70,000	山形県委託研究費
4. 機関誌広告料	0	0	
5. 雑収入	1	1	利息
6. 繰越金	554,462	446,455	令和5年度繰越金
合 計	784,463	693,956	

支出の部

(単位：円)

科 目	令和5年度 決算額	令和6年度 予算額	備 考
1. 事務費	38,221	30,000	郵送料,事務用品等
2. 会議費	0	0	
3. 学術集会 運営費	124,395	80,000	講師への謝金等
4. ニュースレター 発行費	95,172	55,000	ニュースレター2回発行。1回の印刷費
5. ホームページ 管理費用	10,230	11,000	ホームページ更新
6. 研究委託金	70,000	70,660	山形県委託研究費
7. 人件費	0	10,000	学会運営アルバイト
8. 交流集会運営費		5,000	事務用品等
9. 予備費		432,296	
合 計	338,008	693,956	

委託研究報告

健康教育実施前後の子宮頸がん予防意識の変化について
～HPV ワクチン接種対象年齢生徒への指導を通して～

○土屋 隆子（村山市立楯岡中学校）

【目的】

本研究は、産婦人科医師による子宮頸がん予防の健康教育実施前後の中学2年生の子宮頸がん予防意識の変化を明らかにする。

【方法】

1)調査対象と調査期間：2023年11月～12月、村山地方のA市中学校に所属する2年生101名
2)調査方法：①第2学年保健「がんの予防」の単元で産婦人科医医師を講師に授業を実施する。併せてA市保健師からA市におけるHPVワクチンの周知内容とがん予防の取組を紹介してもらう。②授業実施後に同じ内容のアンケート調査を実施する。調査で得られた回答は単純集計して授業前後で比較する。自由記述は主な結果を抜粋してまとめる。

【結果】

アンケート有効回答数は88名(87.1%)であった。「子宮頸がんは性感染症か」という質問には、事前調査においてもHPVによる感染症であると答える生徒が33.0%であった。授業実施後の事後調査では98%となった。「子宮頸がんについて知っていること」を調査した結果、事後調査では、HPVワクチンは女性の子宮頸がん予防だけでなく男性にも有効で、接種も可能であると答える数が増加した。さらに、子宮頸がんの特徴でもある「若い世代に罹患率が高い」ことを理解した生徒が増加した。「自分は将来がんにかかる可能性があると思うか」の事後調査の結果では、「とても思う」「思う」を合わせた回答が95%となり、自分のこととして受け取めたことが分かった。HPVワクチン接種対象者の女子だけにHPVワクチンの接種について調査した結果、該当学年でHPVワクチンを接種完了、接種途中、接種予定を含めた生徒は対象生徒の約40%であった。「家族と健康やがん予防について話したいと思うか」の質問では、事前調査では「話したい」と回答した生徒は51%であったが、事後調査では82%になった。

【結論】

授業後のアンケート結果から、子宮頸がんが性感染症であるということを98%の生徒が理解し、78%の生徒がHPVウイルス感染は男性にもがんを引き起こす可能性があることを認識したことが分かった。また、自由記述には「生き方」や「生命の誕生」につなげて思考したことが分かる内容のものもあり、産婦人科医師に講師を依頼した成果も確認できた。さらに、HPVワクチン接種対象者である女子のワクチン接種に対する調査も実施した結果、事前調査では「接種を考えていない」とするものが24人(50.0%)であったが、事後調査では5人(10.4%)へ減少し、残りの19人(39.6%)は「家族と相談したい」と回答し、HPVワクチン接種に対する意識に大きな変容が認められた。このことにより本研究が、学校で行う健康教育で正しい知識を学習することが子宮頸がんの予防行動やワクチン接種の動機付けに有効であることが示唆された。一方、自由記述において保護者の中にはHPVワクチンの副反応に関する不安や疑問を抱えている実態も伺えるものがあった。生徒への健康教育の強化と並行して、保護者への啓発にも力を入れていく必要があることも同時に示唆された。

全文は山形県小児保健及び母性保健に関する委託研究事業「母性保健に関する委託研究」で閲覧可能
<https://www.pref.yamagata.jp/documents/2609/r3boseiitaku.pdf>

学会からのお知らせ

委託研究報告

これまでの委託研究の成果報告は山形県のホームページ「母性保健に関する委託研究」に掲載されています。是非ご覧ください。

<https://www.pref.yamagata.jp/010002/kenfuku/kosodate/shoni/itakukenkyuu.html>

令和6年度 年会費納入のお願い

令和6年度の理事会において、今年度は年会費を徴収することにいたしました。

何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

本会は皆様の会費で運営されております。

令和6年度会費につきまして、下記の口座番号へ会費の納入をお願いいたします。

年会費：正会員 2,000 円 学生会員 1,000 円（大学院生は正会員に含む）

学会入会方法

1. 本会への入会・継続を希望する方は、学会入会／継続申込書を山形県母性衛生学会事務局あてに郵送またはFAX(023-686-6729)するか、Eメール(yamagatakenbo@yahoo.co.jp)でお送りください。様式は学会ホームページからもダウンロードできます。
2. 入会金は不要です。年会費を下記口座にお振り込みください。

振込先

ゆうちょ銀行

口座番号：02250-2-145619

口座名称：山形県母性衛生学会（ヤマガタケンボセイエイセイガツカイ）

他金融機関からお振込用口座番号

店名：二二九（ニニキュウ）店

預金種目：当座 口座番号：0145619

口座名称：山形県母性衛生学会（ヤマガタケンボセイエイセイガツカイ）

発行所
山形県母性衛生学会
〒990-2212
山形市上柳 260
山形県立保健医療大学
保健医療学部看護学科

お問合せ先
山形県母性衛生学会メールアドレス yamagatakenbo@yahoo.co.jp
山形県母性衛生学会ホームページ <http://square.umin.ac.jp/yamagatabosei/>